

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	〒025-0244 岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田畑に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており、24時間連絡が取れ日常的にバックアップ体制が取れている。職員の配置替えや利用者の入れ替えによる人的環境の変化があるが、利用者同士の交流や家族との交流を通し、利用者の出来る日常生活を通して施設に馴染んで頂き、その人らしく生活できるよう支援している。体操や散歩で体を動かし日中の活動を行う事で夜間の安眠を促している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、花巻南温泉郷の入口に位置し、特別養護老人ホーム大谷荘に隣接して立地している。同法人の特養が隣接することで、重度化した場合の施設変更が円滑だったり、看護業務や避難時での職員の応援体制が整うなどのメリットとなっている。また、家族による協力が良く得られており、運営推進会議に委員として参加したり、通院の付き添いに合わせて積極的に外出支援も行うなどの協力がある。コロナ禍で減少していた地域との交流についても、少しずつ復活してきており、避難訓練には地区長さん等の参加協力があったり、花壇の花植えに民生委員他の方々から来訪するなど、地域の方々から大切にされる事業所となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で尊厳ある人生をその人らしく豊かに安心して暮らせる場所」を運営理念とし、ホールなど目につく所に張り出している。ケアプラン作成時にも、理念に沿って利用者の出来ることを考え、職員で共有し実践している。	事業所開設時以来の運営理念を大切にしており、事務室やホール内に掲示している。以前は職員間で理念の唱和も行っていたが、現在は職員不足もあって時間が限られ唱和は行っていない。新人職員には、管理者から理念の説明を行い理解を促している。	職員による理念の理解は大切な点であり、掲示に止まらずに、職員会議の中で話し合ったり唱和するなどして、少しでも理解促進が図られるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力の防災訓練、花壇作りなどを通じて、交流を図っている。	コロナ禍で地域との交流機会は減少していたが、今年は地域の民生委員の声掛けで事業所内の花壇に女性達が花を植えてくれた。また、花巻祭り際には市役所の神輿が来訪し、利用者に喜ばれた。避難訓練でも、地域の区長さん等が参加してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話及び入所申込みの来訪者の相談や認知症対応への家族やケアマネジャーの問い合わせに答えている。施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに会議を開催している。利用者の生活の状況の報告やヒヤリハット・事故報告などテーマを決めて意見や助言など頂き、職員へ周知している。	今年5月から久しぶりに集合開催となっている。会議は民生委員や地域包括支援センター職員、家族代表などで構成され、利用者の生活状況や行事の報告のほか、家族アンケート結果や事故報告などをテーマに活発な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、取り組み内容を伝えたり、市の介護保険の動向や情報を知らせて頂いている。また、地域包括支援センター職員との連携協力を取っている。	運営推進会議には市長寿福祉課職員と地域包括支援センター職員が参加しており、事業所の運営状況を良く理解されている。要介護認定業務など、日常的にも市に出向いて相談するなど連携を図っている。大雨で高齢者避難等が出た場合には、市から避難状況確認の連絡がある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して、拘束を行わないケアに取り組んでいる。外に出たい利用者には見守りしながら付き添いをしていく。	法人全体の身体拘束廃止委員会は3ヵ月毎に開催され、事業所からは所長が参加している。委員会の内容は、研修内容も含めて職員全員に回覧して周知を図っている。スピーチロックについては、馴れ馴れしい言葉遣いが無いよう、その都度注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中で虐待につながる事がないか注意し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な回覧される資料を確認し、制度を学んでいただき、利用者や家族に必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に重要事項説明書を提示し、疑問点を聞き、その都度必要な説明を行っている。制度改正等による内容変更の都度、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置している。年に1回家族アンケートを記入していただいたり、面会時にも家族の意向を確認し、職員で話し合い支援に繋げている。	運営推進会議には家族代表者が参加しており、良く意見や質問をいただいている。また、事業所として家族アンケートも毎年実施し要望等を伺っており、内容にはなるべく対応している。また、面会時の来訪の際にもお話を伺っている。道路に出る際に見通しが悪いとの指摘があり、対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや記録等の時間に職員間で話し合いを持ち、改善案を考えサービスの向上につなげている。	職員からは毎月の職員会議の他にも、日常的に意見が良く出されている。設備や備品などの提案は、なるべく具体化して改善されており、ケアの内容についても良く話し合われ改善に繋がっている。また、職員不足についても度々話題にされ、課題となっている。	

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に日々の業務に対して、意見や不安等を十分に聞き、話し合いながら、業務に取り組んでいる。又、精神的ストレスを溜めこまない様職員間で相談し、良いチーム環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には指導職員が共に勤務し指導している。外部研修に参加した場合は内部研修で伝達し、情報を共有し1人ひとりがスキルアップするように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会などを通して、他施設の良いところを知り、自施設のケアに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接で本人及び家族から困っている事や要望を聞き取ると共に、本人の声や表情、行動等から困っている事や不安な事をいち早く察知し、安心できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み時の家族からの相談内容を再度事前の面接で聞き取りし、本人の状況と家族の不安や要望を確認し、利用者の受け入れ態勢を整え、信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での様子を聞き、本人と家族の実情を把握し、必要に応じてすぐ対応できるように他の介護サービス等をお知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で同じ時間を過ごしていく中で、出来る事を一緒にやって頂いたり、人生の先輩として尊敬を持ち、暮らしを共にしている。		

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に現在の様子を伝えたり、自宅での以前の様子や思い出を聞き、情報共有し支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話に本人の家族の名前や地名を話題にしている。家族の協力で毎月通院したり、自宅への外出を勧めている。	職員との会話の中では良く地元の地名が話され懐かしがっている。バスハイクの際には、利用者の実家前を通る配慮もしている。また、通院の際には付き添いの家族が、実家に立ち寄ったり馴染みの食堂で食事して、馴染みの場所を楽しんでいる。自宅に外泊する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで利用者同士が馴染みになるように同じ席に座っていただいたり、コミュニケーションを取りやすい環境作りにも努めている。一緒にレクリエーションをしたり、DVDの活用や歌を唄う等共通の活動を行い楽しんで頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移った利用者の情報提供や行事の際の面会、グループホームでの生活の様子を伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり、日常の会話や行動または表情から思いを汲み取り、対応を職員で話し合い、統一した支援に努めている。	利用者全員が言葉で思いや意向を伝えることができ、帰宅や外出、食べ物などの希望が多い。希望の多いお寿司は、誕生会にちらし寿司を提供するなどしている。利用者の思いは、一緒に作業をしたり入浴の際に良く話されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に昔の事を尋ねたり、写真や馴染みの物を持ってきていただき自室に置いている。また、本人との会話から昔の事を聞きだし、好みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の流れや変化を、ケース記録や申し送り等で把握し、職員間で共通の対応が出来るように心掛けている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望や生活の意向を聞き、職員で検討し、ケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、次のプランに反映させている。	介護計画は居室担当者とケアマネが話し合い、概ね6カ月の計画を作成し、入居後半年で改めて計画見直しを行っている。モニタリングは担当職員とケアマネが行い、職員カンファレンスにおいて検討されている。計画は概ね6か月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、介護日誌、連絡ノート、医療ノート等で確認し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、外出を勧めている。物品購入の代行、通院の付き添いや送迎は、家族の状況に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々の協力による防災訓練や花壇整備を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医へ家族と通院の際、本人の様子を情報提供書として提出している。他科受診時も受診内容の伝達を行っている。	利用者は入居前からのかかりつけ医を継続して利用し、多くが花巻市内の個人病院に通院している。通院には家族が付き添っており、事業所からはバイタルデータ等を家族に渡している。看護業務は、隣接の特養の看護師が対応しており、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の特養の医務室看護師に、緊急時は相談し助言いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に入院先への情報提供、入院中の家族との連携による退院後の支援を行っている。必要に応じて入退院の送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化後の対応について確認している。母体の特養への入所希望が多いので担当職員と連携を取り、情報提供している。終末期への対応についても、チームで支援できるように配慮している。	入居の際には、重度化した場合の対応について説明し理解を得ている。介護度3以上になるなど、重度化した際には隣接の特養への入所となることが多く、法人として一貫した対応をとっている。容態悪化で入院した場合でも、隣接施設への入所となる方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体特養の看護師による学習会で、知識、実践力を身に付け、職員間で様々な情報を共有し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(火災、土砂災害等)を様々な想定のもとで実施している。訓練内容によって地域の消防団や母体特養の職員の協力を得ている。毎月防火安全対策DVDを観て防災意識を持って頂いている。備蓄食品(3日分)は常に期限を確認し揃えている。	市のハザードマップでは浸水や土砂崩れの危険区域には含まれていない。年2回の避難訓練を実施しており、地域の区長さんや民生委員ほかの協力者も参加し手伝っている。夜間想定訓練では夜勤職員1人に加え、特養から2人の応援があり、心強い。	夜間想定訓練は、日中でも薄暮時の暗さを感じる時間に実施することで、より実践的な訓練とすることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩と意識し、尊敬の心を持って言葉遣いや接し方に配慮し、一人一人の目線に合わせ寄り添ってケアしている。認知症やコミュニケーションの研修を行い、プライバシー保護について確認している。	利用者の尊厳を守るという基本理念に沿って、毎朝、一人一人に丁寧にあいさつし、声掛けではなく、ちゃん付けではなく、方言も取り入れながらも丁寧な言葉遣いを心掛けている。プライバシーに配慮し、男性の介助を嫌う方には女性職員が対応している。排泄の失敗時には、さり気なく声掛けし、周りから気づかれないようケアしている。	
----	------	--	---	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で表情や行動等で本人の思いを汲み取り、本人が選べる様に分かりやすい説明を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調や気分で、ソファや畳で過ごしていただいたり、自室で過ごす事を選んで頂くなど、本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が本人の希望を聴き理髪を行っている。また季節に合わせて本人の好みの服装を用意し選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチン前に手作りの献立表を張り出し、読み上げている。本人の嗜好を確認したり、テーブル拭きなど本人が出来る事を行って頂いている。誕生日は本人の好きな献立を用意し楽しみをもって頂いている。	献立は特養のメニューも参考に、利用者の好みを取り入れ、調理は職員が交代で担当している。利用者は、もやしの前処理やテーブル拭き、下膳等を良く行っている。誕生日には、本人の好みのメニューを提供し、ケーキも楽しんでいる。また、利用者は、職員と一緒にホットケーキ作り等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べやすい食事形態や軽い食器を利用したり、水分摂取チェック表で摂取量を確認し、不足しない様に水分摂取を勧めている。夏は特にこまめに水分補給を行っている。毎月体重測定を行い、カロリー摂取の多い人は、ご飯の量で調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の歯科検診の実施と、毎食後の歯磨きの徹底の為、見守りや声掛けし、自己で出来ない人は介助し、義歯洗浄、口腔内の確認を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム おおたに

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。個々の排泄時の後始末の状態に合わせて本人の出来ない所を支援している。尿意の訴えない人は、本人の行動をみて誘導し排泄に繋げている。	排泄チェック表を活用して適時の声掛け誘導を行っており、全員がトイレでの排泄ができている。声掛けは「手紙が来ています」などと工夫している。布パンツで自立の方が3人で、他はリハビリパンツ使用である。自宅での状態と比較して改善している方が多く、現状維持を目指して支援に力を注いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のミーティングや排便チェック表で排泄状況の確認を行い、便秘の人は朝に水や乳酸菌飲料等で排便を促したり、医師と相談して下剤の調整、体操や散歩を取り入れ便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	利用者の認知症状やペースに合わせて入浴順番を調整し、ゆっくり入浴していただくよう支援している。安全を考え職員二人体制で入浴介助している。プライバシー保護の為、脱衣室のカーテン使用している。本人の好みの湯加減に調整し、入浴後疲れやすい人は自室で休んで頂くよう勧めている。	週3回の入浴を基本とし、一般浴槽を利用して職員と会話しながら1対1となる時間を楽しんでいる。入浴を嫌がる傾向のある方もいるが、声掛けなどを工夫して対応している。菖蒲湯やゆず湯も提供しており、季節感を味わい楽しませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室やソファで休んでいただく事が習慣になっている。時には本人の希望により和室も利用している。日中の体操や日光浴等で夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日3回分個々に薬箱を分け、配薬準備は職員2人で確認、投与者は服薬時再確認して誤薬防止に努めている。新規の薬や内容変更時には医療ノートに記入し職員全員で把握している。処方箋は個人毎に管理し他科通院時に活用している。服薬時、個人に合わせてゼリーを使用している。呑み込み確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や日光浴、季節の歌を唄いレクリエーション等で楽しんだり、DVDで好きな歌手のショーを観て頂いている。また、洗濯たたみやテーブル拭き等の仕事で張り合いを持って頂いている。コーヒー等の嗜好品やお菓子も家族に用意して頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける様バスハイクで出かけたり、外を散歩したり、また家族の協力で、通院時などを利用し、本人の希望の場所へ行っていたいでいる。	コロナ禍で以前のように外出ができていないが、お花見や紅葉見物のバスハイクには出かけており、花巻温泉や大沢温泉などへのドライブを楽しんでいる。事業所周辺には桜も植栽されており、良く散歩している。また、家族による外出機会も多く、協力的である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話を取り次いだり、電話を掛けたいと希望がある時は、本人(代り)から掛けている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、歩きやすい様に家具類を置いている。ウッドデッキに出て花壇の花を見て頂いたり、空気の入替えや風を通す事で季節を感じて頂いている。居間は季節に合わせて飾りつけを行っている。空気清浄器を使用し、室内は夏はクーラー、冬は暖房と加湿器で心地よい環境を調節している。	ホール内は、エアコンとパネルヒーターによって適温に保たれている。季節を感じさせるクリスマスツリーが飾られており、壁面には利用者の行事写真などが貼られて明るい雰囲気となっている。利用者は、ホールでくつろぎながらテレビを見たり、介護体操やゲームなどで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座敷の上り口に腰掛けたり、居間の自分の座席等好きな所に座っていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で本人の使い慣れた物やぬいぐるみを置いたり、写真入りの誕生カードを飾ったり、部屋の入り口にも本人や家族の意向で写真を飾って自室と認識していただくように工夫している。部屋のカレンダーは家族に依頼した物を使用している。	居室にはベッドと、クローゼット、洗面台が備え付けられ、暖房はパネルヒーターを使用している。利用者は、テレビや小筆筒、家族写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、壁には行事写真を飾るなどして居心地よく整えている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おおたに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の名札を大き目に作ったり、浴室ののれんやトイレの位置が分かりやすい様に大きな文字で表示をしている。自室のベッドの位置を一人一人の状態に合わせて、本人が安全に移動しやすい様に配置している。		